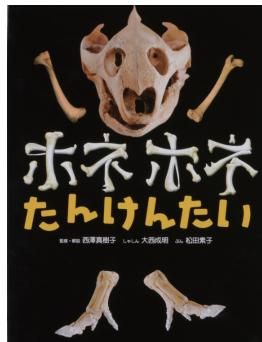


## せきつい動物



## ホネホネたんけんたい

西澤真樹子／監修・解説

大西成明／写真

松田素子／文

アリス館 2008年 1500円

ヘビ、カメ、ウサギ、コウモリなど、いろいろな動物の骨の特徴がわかりやすく解説されている写真絵本です。骨の写真はどれも美しくインパクトがあります。人が持っていない骨を持っている動物もいます。さて、おちんちんにホネがあるのでしょうか？

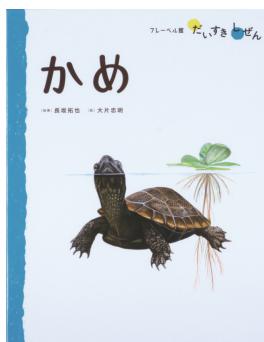


## ヘビのひみつ (ふしがいっぱい写真絵本 14)

内山りゅう／写真・文

ポプラ社 2009年 1200円

ヘビの世界へようこそ。ヘビの生態を、日本によくいる5種類の蛇たちの写真が解き明かしてくれます。脱皮していく様子や、孵(ふ)化のシーン、卵を丸呑みするアオダイショウなど美しく、迫力満点。巻末にはヘビの秘密がまとめられています。



## かめ

(フレーベル館だいすきしせん みずのいきもの2)

長坂拓也／指導

大片忠明／絵

フレーベル館 2009年 1000円

かめを飼いたい、または飼っている人に、元気なかめの選び方や飼育の仕方、病気のときの対処の仕方が、やさしく説明されています。小さい子どもにもわかりやすい内容です。



### クマよ (たくさんふしぎ傑作集)

星野道夫／文・写真

福音館書店 1999年 1300円

アラスカの自然に魅せられた動物写真家星野道夫。アラスカという大地の折々の風景の中でいろいろな表情を見せるクマたちに、彼は優しく語りかけています。「気がついたんだ おれたちに 同じ時間が 流れていることに」と。地球の雄大さに気付かされます。著者の遺稿による写真絵本です。



### ふしぎな鳥の巣

鈴木まもる／文・絵

偕成社 2007年 1400円

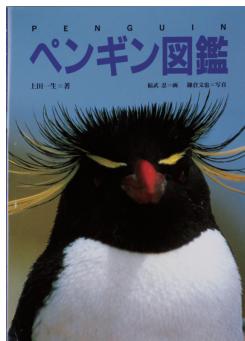
クモの糸で葉を縫うオナガサイホウチョウや、湖の中に石を積み上げて巣を作るツノオオバン。世界中の不思議な鳥の巣が美しいイラストで紹介されています。巣をつくる手順や巣の断面図から、巣の持つ機能性の高さもわかります。

(参考図書)

『鳥の巣の本』(絵本図鑑シリーズ 19)

鈴木まもる／著

岩崎書店 1999年 1500円



### ペンギン図鑑

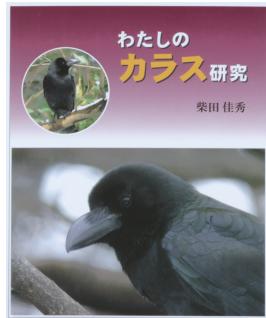
上田一生／著

福武忍／画

鎌倉文也／写真

文溪堂 1997年 2400円

人気者のペンギンたちの野性での暮らしがよくわかる写真図鑑です。極寒の南極大陸から赤道直下の熱帯まで、現在18種類が生息しています。それぞれの種類ごとに、ペンギンの生息地、生態、生息環境が見開きページで紹介されています。

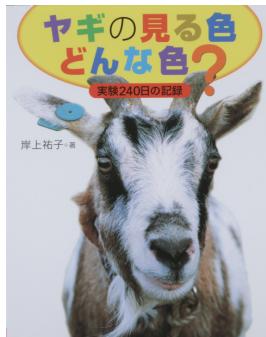


## わたしのカラス研究

柴田佳秀／著

さ・え・ら書房 2006年 1400円

あなたはカラスが好きですか？ とかく嫌われ者のカラスですが、昔は人間とは親しい関係でした。TVディレクターの著者が、いろいろな実験を通して、カラスへの誤解を解いていきます。賢いカラスの驚くべき行動も紹介しています。



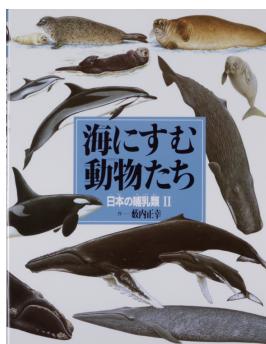
## ヤギの見る色 どんな色？

実験240日の記録

岸上祐子／著

ポプラ社 2004年 950円

「ヤギが色を見分けることができるか？」を卒論の研究テーマにした著者の240日間の実験記録です。人が色からの影響を受けるようにヤギも影響を受けるのか？ どんな手順で実験していくのがよいか？ 湧き上ががってくる疑問を解明すべく、実験器具の作製からヤギをコントロールするあの手この手まで、まるで目の前の実験を見るように面白く読めます。

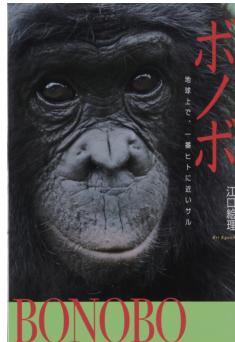


## 海にすむ動物たち (日本の哺乳類 2)

斎内正幸／作

岩崎書店 1994年 1400円

クジラ、シャチ、イルカ、オットセイ、ラッコなど日本の近海にすむ哺乳類36種が、細密かつ生き生きとした絵で描かれ、生態も紹介されています。クジラの餌の捕り方、しぐさ、背びれによる種類の見分け方なども知ることができます。



**ボノボ 地球上で、一番ヒトに近いサル**  
(soenshaグリーンブックス No5)  
江口絵里／著

そうえん社 2008年 1200円

ボノボとチンパンジーは地球上の全動物の中で、遺伝的に最も人に近い類人猿です。ボノボの特徴である、争いを避け平和的解決に導く集団形成力や、相手とコミュニケーションを取る高い知能を、チンパンジーと比較しながらまとめています。著者のボノボへの深い愛情が伝わってきます。



**ゴリラ図鑑**  
山極寿一／文・写真  
田中豊美／画

文溪堂 2008年 2500円

ゴリラは人間と同じヒト科の類人猿です。ゴリラの生息地は？ ゴリラの寝床は？ ゴリラの好きな果実は？ ドラミングの意味は？ など、長年ゴリラの生態を観察し続けている著者がまとめた写真図鑑です。アフリカでの保護活動もわかります。



**モグラ博士のモグラの話** (岩波ジュニア新書)  
川田伸一郎／著  
岩波書店 2009年 780円

とかく偏見や迷信の対象になるモグラですが、調べれば調べるほど研究材料として魅力的です。モグラ博士が14年間の研究成果をまとめました。世界中のモグラ、分類学や形態分析、染色体やDNAから読み取れる進化の歴史まで、モグラづくしの一冊です。生き物を対象にしたフィールドワークに興味がある人にもお薦めです。

(参考図書)  
『モグラの生活』(たくさんのふしぎ傑作集)  
飯島正広／文・写真  
福音館書店 2010年 1300円

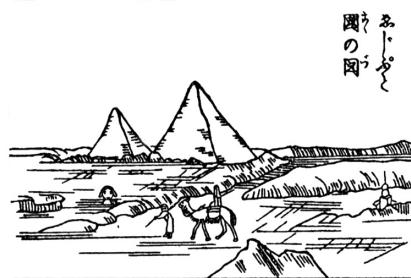


## 地球動物記

岩合光昭／著

福音館書店 2007年 4700円

動物写真家 岩合光昭の37年間の撮影記録を厳選した写真集です。1月1日(1994年)地獄谷・冬の温泉、温まるニホンザルの親子。3月1日(1993年)カナダ・セントローレンス湾、生まれたてのタテゴトアザラシ。その日に撮影した250種をこえる野生動物の写真を、カレンダーの形式で並べています。季節ごとの地球上の動物たちと、自然の表情が見てとれます。



『訓蒙窮理図解』第六章「雹雪露霜冰の事」より